

ものは常に変化し永遠に続くものはない、ということを理解しないまま、分かったようなことを書いていたのです。期せずして、私の書く文章の底の浅さを露呈する結果となってしまったのですが、一点だけ私にも「救い」があります。それは、私が座右の銘としていえる言葉が「知足（みずからの分をわきまえて、それ以上のものを求めないこと）」であるということ。

田辺聖子さんのエッセイに「てっぺん」という作品があり、そこには、例えばサラリーマンであれば、社長や重役のような「てっぺん」を目指す生き方をしていると人生において大事なものを置き忘れるということが起こりがちだから、山の麓や三合目で人生を楽しむような生き方も良いのではないか、ということが書かれているのですが、まさに私が税理士会内で目指しているのが、決して税理士会内での出世などを望まず、山の三合目あたりで人生を楽

しむというスタンスなのです。

じつは今回の旅の間にも、私が所属する学会の記念大会が京王プラザホテルで大々的に開催されており、その総会を私がやるようにと役員会で指名をされていたのですが、「その日、日本にいませんから」と大役から逃れることにまんまと成功していたのです。そうやって、徐々に「あいつはやる気がないからダメだ」という雰囲気税理士会内で醸成させて、役職などを振られるのを避けようという戦略なのです。だって役職などに就いたら、サーフトリップに行けなくなってしまうすから。

そして今回、2週間留守にして、実際にどうだったかというところ、じつに見事なくらい何事も起こりませんでした。事前に「電波は届かないよ」とは言われていましたが、船が洋上の島に近づいた時などにはスマホの電波のアンテナが立つことがありますし、陸上のキ

ャンプのある島に上陸してそのWiFiを使わせてもらうこともありましたが、そこそこ業務遂行することも可能だったのです。そんな努力（笑）の甲斐あってか、平日の午前中に羽田着の便で帰国した際に事務所に「これから事務所行けるけど、どう？」と電話をしたところ、「別に来なくても大丈夫じゃないですか？」と言われ、私は拍子抜けしてしまったのです。いやいやいやいや……本当に？ もしかして、これって三行半じゃないですよ？



Akira Saito

川橋 奈生 神奈川  
士橋 理生 東京  
務事 士計 橋本  
学計 士計 波  
医口 波  
士波  
川橋 奈生 神奈川  
士橋 理生 東京  
務事 士計 橋本  
学計 士計 波  
医口 波  
士波

【近況】海外の日系保険会社でキャリアを捨て、娘は今空港内のように生かしています。なぜか思いがけず、少